

# パークマネジメント推進方針

～多様な主体との連携による公園緑地の利活用と管理運営の基本的な考え方～

令和3年3月



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

## ～目 次～

### 第1章 パークマネジメント推進方針の策定にあたって

1 策定の背景・目的	2
2 公園緑地を取り巻く最近の動向	
（1）公園緑地を取り巻く国の主な動き	3
（2）本市における主な関連施策	3
（3）新型コロナウイルス感染症の拡大の影響への対応	4
3 位置づけ	5

### 第2章 本市の公園緑地の現状と課題

1 公園緑地の現状	
（1）公園緑地の利用状況	6
（2）公園緑地の管理状況	10
（3）公園緑地の設置状況	13
（4）サウンディング調査（民間事業者等ニーズ）	14
2 公園緑地の抱える主な課題	16

### 第3章 パークマネジメント推進方針

1 基本的な考え方・取組の方向性等	
（1）パークマネジメントの推進に向けた基本的な考え方	17
（2）パークマネジメント推進方針の取組の方向性	18
（3）取組内容	
【視点1】柔軟な利活用の促進と利用の多様化	
#1：民間事業者等の主体による多様な目的での利活用の拡大	19
#2：保全緑地における利活用と保全の好循環の創出	20
#3：多様な分野の取組と連携した利活用の促進	22
#4：様々な機会を捉えた地域が主体となった利用ルールづくりの促進	23
【視点2】利用者の視点・経営的な視点に立った維持管理・運営	
#5：市民創発型の取組との連携による協働の裾野の拡大	24
#6：包括型管理運営手法等の導入や新技術等の積極的な活用	26
#7：運用基準の構築や基準緩和等による公園緑地の利便性の向上	28
#8：公園緑地における収益性の確保・向上と維持管理に係る財政負担の軽減	30
【視点3】柔軟な利活用と効率的な管理運営を見据えた公園づくり	
#9：民間のアイデア、ノウハウの効果的な導入の促進	32
2 主な対象公園緑地	37

### 資料編

1 公園緑地の概況	
（1）公園緑地の設置箇所数・管理面積の現状	38
（2）本市の公園緑地の紹介	39
2 公園緑地の管理運営手法等	
（1）地域との協働による管理	41
（2）公園緑地の管理運営手法	41
3 川崎市の緑について（かわさき市民アンケート）	
（1）アンケート概要	42
（2）かわさき市民アンケート結果（単純集計）	42
4 川崎市緑の基本計画・実施計画との対応関係	46
5 策定体制	47

### 1 策定の背景・目的

都市における貴重なオープンスペースである公園緑地は、健康増進やレクリエーションの場の提供はもとより、防災性の向上、環境維持・改善効果、子育て・教育環境の向上、コミュニティの形成、さらには観光資源となるなど、多面的な機能を有しています。

本市では、多摩丘陵や多摩川などの豊富な自然環境資源、特徴ある公園緑地など、多様で広域性のある緑が広がっており、誰もが緑を実感できる生活空間の実現を目指して、市民との協働や民間企業等の多様な主体との連携による、緑の保全や創出、育成、活用に取り組んできたところです。

一方、近年の少子高齢化の更なる進展、都市インフラの老朽化、町内会、自治会等の地域コミュニティにおける高齢化の顕在化といった社会状況の変化や厳しい財政状況の中で、維持管理が十分に行き届かなくなることによる公園緑地の維持管理水準・機能の低下や整備から年数が経過することによる公園施設の老朽化の進行などに対して、維持管理に係る行政負担の増大などの問題が顕在化してきています。また、公園緑地の日常的な維持管理を支える協働の担い手である地域の活動団体の高齢化や後継者不足による活動の継続性の確保などの課題に直面しています。

加えて、多発する自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより、社会状況が大きく変容する中で、災害時や非常時における公園緑地を含む緑とオープンスペースの持つグリーンインフラとしての価値が再認識されるとともに、今後は、平時においても市民のライフスタイルの変化や多様化する市民ニーズに対応し、日常生活に溶け込んだ様々な活動の場としての利活用が求められています。

このような公園緑地を取り巻く様々な状況の変化に柔軟に対応していくため、行政のみならず、市民、地域の活動団体、NPO、学校、企業等のあらゆる主体がそれぞれの強みを活かして効果的に連携しながら、公園緑地という緑のストックのこれまで以上に柔軟かつ多様な利活用を推進するとともに、持続可能な管理運営の仕組みの構築に向けて取り組んでいくことが必要となっています。

以上を踏まえて、公園緑地において今後取り組むべき方向性やその必要性をあらゆる主体が共有し、地域の特性やニーズに応じて、公園緑地の持つポテンシャルや多機能性を、都市のため、地域のため、市民のために引き出し、公園緑地の新たな価値の創出による質の向上とさらなる魅力向上を図るため、「パークマネジメント推進方針」を策定するものです。



### 2 公園緑地を取り巻く最近の動向

#### （１）公園緑地を取り巻く国の主な動き

##### ・ 新たな都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会（平成28（2016）年5月）

国土交通省は、平成28（2016）年5月に「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会 最終報告書」を公表しました。報告書では、新たな時代の都市をつくる緑とオープンスペースの基本的考え方において、「新たなステージ」へ移行すべきとした上で、新たな視点として、「ストック効果をより高める」「民との連携を加速する」「都市公園を一層柔軟に使いこなす」の3つの視点が示されています。

##### ・ 都市公園法の改正（平成29（2017）年6月）

平成29（2017）年の法改正により、新たなステージでの都市公園の再生、活性化を推進するため、PFI（公募設置管理制度）の創設や都市公園内保育所の全国措置化、公園を活性化する協議会の設置等が盛り込まれました。

##### ・ 都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会（令和元（2019）年6月）

産学官のメンバーで構成される都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会（座長：浅見泰司 東京大学大学院工学系研究科教授）が、令和元（2019）年6月に、官民のパブリックな空間（街路、公園、広場、民間空地等）をウォーカブルな人中心の空間へ転換・先導し、民間投資と共鳴しながら官民一体となった「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成による都市の再生に向けた提言をとりまとめています。居心地が良く歩きたくなるまちなかのイメージとして、WEDO（Walkable：歩きたくなる、Eye level：まちに開かれた1階、Diversity：多様な人の多様な用途、使い方、Open：開かれた空間が心地よい）の考え方が示されています。

##### ・ 都市再生特別措置法等の改正（令和2（2020）年9月）

街路、広場、公園、民間空地等の官民の公共空間を、まちづくり全体の中で一体として捉え、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出による魅力的なまちづくりに向けて、市町村が作成した都市再生整備計画において、滞在快適性等向上区域を設定し、当該区域内で官民一体となって取り組む公共空間の創出のための事業や都市公園の活用などに対する特例措置が盛り込まれました。また、都市公園においては、看板、広告塔などの占用の特例や公園施設設置管理協定制度などの新たな制度が創設されました。

#### （２）本市における主な関連施策

##### ・ 「資産マネジメントの第3期取組期間の実施方針」の策定に向けた考え方について（平成31（2019）年2月）

本市施設の最適な維持管理や活用等を行い、必要な行政サービスの提供や施設利用者の安全・安心を確保するとともに、財政負担の縮減による多様な市民ニーズに対応した行政サービスの財源確保を目指して、本市の資産マネジメントの基本的な視点や考え方、取組を示したものです。現在の第2期は、「戦略1 施設の長寿命化」の重点取組期間としていますが、第3期は、「戦略2 資産保有の最適化」の「第4期」取組準備期間と位置づけており、国が示す課題認識等を踏まえ、今後、「戦略2 資産保有の最適化」に関する検討を重点的に進めていく必要があることから、「資産マネジメントの第3期取組期間の実施方針」の策定に向けた考え方をとりまとめたものであり、各施設の更新等にあたっては、本考え方に示す内容を踏まえた検討を行うこととします。

### 2 公園緑地を取り巻く最近の動向

#### ・川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進方針（平成31（2019）年2月）

平成27（2015）年に国際連合において採択された、先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標である、持続可能な開発のための2030アジェンダにおいて掲げられている、17のゴール（目標）と169のターゲットを示した持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえ、本市自らが積極的に取組を進めていくための姿勢や基本的な考え方、方向性を定めたものです。公園緑地においては、防災機能の向上や協働の取組の推進、魅力ある公園づくり等の取組を進める中で、SDGs達成に寄与した取組を進めています。

#### ・川崎市これからのコミュニティ施策の基本的考え方（平成31（2019）年3月）

「市民創発」による市民自治と多様な価値観を前提とした「寛容と互助」の都市型コミュニティの形成に向けて、「希望のシナリオ」（概ね10年後の川崎市が目指す持続可能な都市型コミュニティ）を実現していくための施策の方向性を示したものです。誰もが気軽に集える出会いの場として、官民間わず、多様な地域資源を活用して多様なつながりを生む「まちのひろば」を創出し、人材・資源のネットワーク化や情報共有の促進、地域課題の解決等に取り組むとともに、市民のつながりの向上を図っていくことを掲げています。

#### ・民間活用（川崎版PPP）推進方針（令和2（2020）年3月）

本市の総合計画に掲げた「めざす都市像」や「まちづくりの基本方針」の達成に向けた「市民サービスの質的改革の推進」などを基本理念とする行財政改革を、「民間活用」の視点から推進するための考え方を示したものです。市民サービスの提供等における本市が目指す民間活用の考え方や取組の基本的な方針等を整理し、効率的・効果的な市民サービスの提供とそのサービスの質の向上の実現につなげることを目的に策定しています。

### （3）新型コロナウイルス感染症の拡大の影響への対応

#### ・新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（論点整理）（令和2（2020）年8月）

国土交通省は、新型コロナウイルス感染症の拡大が、人々の日常生活のみならず、経済社会のあり方、人々の行動様式・意識など、多方面に甚大な影響を与え、いわゆる「ニューノーマル」への移行の見方が強い中で、新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性を検討するため、新型コロナ危機の収束後も意識し、様々な分野の有識者からの意見を踏まえて、今後の都市のあり方の変化や都市政策はどうなるべきかについて論点を整理しました。

都市政策の大きな方向性として5つの論点ごとに整理されており、論点の一つとして公園緑地を含むオープンスペースについて、「三つの密」（密閉・密集・密接）を回避する観点、テレワークにより自宅近くで過ごす時間が増え、身近な憩い空間の重要性が再認識された中で、今後のあり方と新しい政策の方向性が整理されています。

具体的には、新型コロナ危機を契機として、緑とオープンスペースの重要性が再認識される中で、利用形態の多様化や柔軟な活用に対するニーズの高まりを踏まえた今後の方向性として、「グリーンインフラとしての緑とオープンスペースの戦略的活用・充足」、「まちなかの様々な緑とオープンスペースの総合的な活用」、「地域の関係者の連携による緑とオープンスペースの柔軟かつ多様な活用」の観点から今後検討を深めていく必要があると整理されています。

### 3 位置づけ

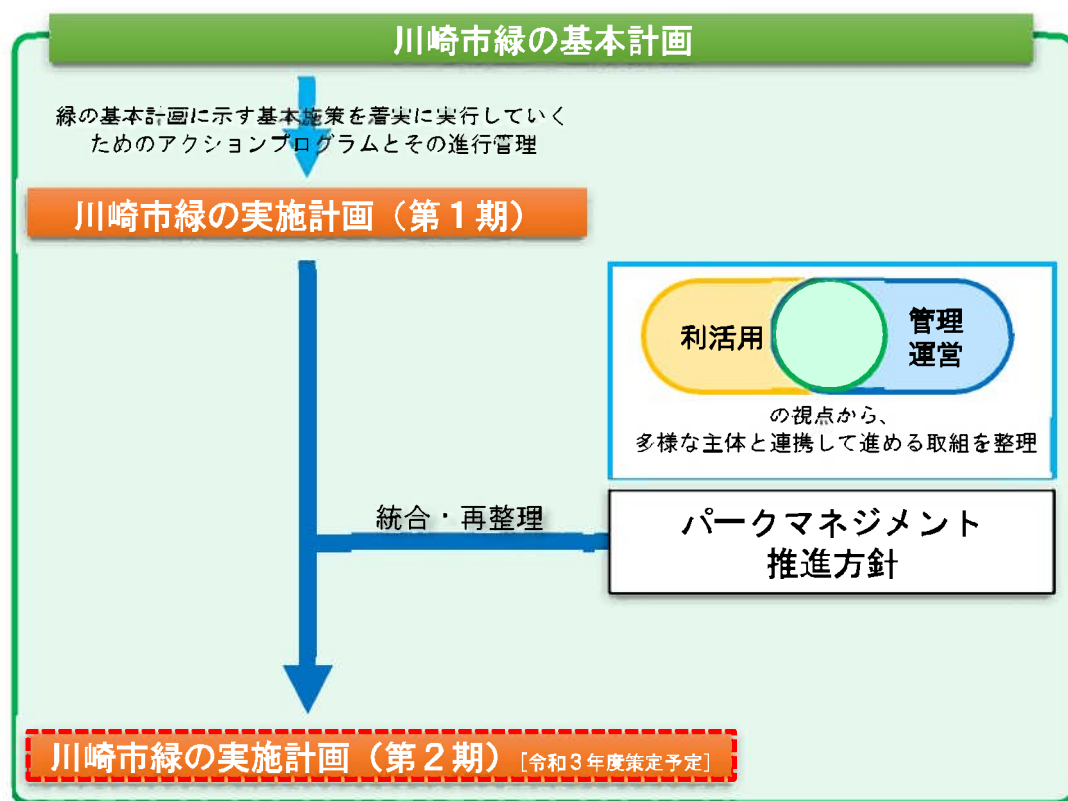
本市では、川崎市緑の基本計画（以下、「緑の基本計画」）に基づき、緑の保全及び緑化の推進、公園緑地の整備等に関する取組を総合的に推進し、市民や民間企業等との協働・連携により、緑ある暮らしの創造や緑の市民文化の醸成に取り組んでいます。また、平成30（2018）年度から令和3（2021）年度までの4箇年を計画期間とする緑の実施計画（第1期）を策定し、緑の基本計画に示された3つの基本施策を支える実施施策を推進する各事業を対象に進行管理を行い、基本施策と緑の施策目標を着実に実行しながら、緑の保全、創出、育成及び活用を進めているところです。

こうした中で、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響や都市公園における制度改正などによる、市民や民間事業者の公園緑地を含む緑とオープンスペースへの価値の再認識やニーズの多様化といった急速な社会状況の変化が起きており、このような状況の変化に対応するためには、行政のみならず、民間事業者等をはじめとした多様な主体と連携し、公園緑地のさらなる柔軟かつ多様な利活用の推進や持続可能な管理運営の仕組みの構築に向けた取組を早急に実行していく必要があります。

このような公園緑地を取り巻く社会状況の変化に対応するため、緑の実施計画において取組を進めている実施施策のうち、多様な主体との連携による公園緑地の利活用と管理運営の基本的な考え方や取組の方向性を整理し、令和3（2021）年度に予定している緑の実施計画（第2期）策定に先行して本方針をとりまとめるものです。

なお、本方針については、緑の実施計画（第1期）の評価・点検を踏まえた各事業や施策の見直しとあわせて、緑の実施計画（第2期）策定時に統合・再整理を行います。

本方針の位置付け（イメージ）



### 1 公園緑地の現状

#### （1）公園緑地の利用状況

##### ①公園緑地の日常的な利用状況

・公園緑地の日常的な利用状況について、令和2（2020）年度に実施したかわさき市民アンケートから、「散歩やジョギング、ラジオ体操など自分の体を動かす」が40.3%と最も高くなっています。次いで、「子どもや孫を遊ばせに行く（25.7%）」「自然観賞や食事、休憩、友人等と会話をする（22.7%）」「地域のお祭りやイベントに参加する（19.1%）」という結果となりました。

・公園緑地は、地域住民の運動や自然観賞、レクリエーション、スポーツなどの場として日常的に利用されている一方、一部の公園緑地では、ボール遊びなどによる近隣への騒音や利用者間のトラブルなど、公園利用に対する意見も寄せられており、自由な遊びが制限され、魅力が減少している公園緑地も出てきています。

公園緑地における活動状況[複数回答可] ※市民アンケート回答者：1,500人

活動内容	基数（人）	構成比（％）
散歩やジョギング、ラジオ体操など自分の体を動かす	605	40.3%
子どもや孫を遊ばせに行く	385	25.7%
自然観賞や食事、休憩、友人等と会話をする	340	22.7%
地域のお祭りやイベントに参加する	287	19.1%
スポーツ観戦や博物館などの公園内施設を利用する	188	12.5%
仲間と野球やサッカー、テニスなどのスポーツをする	161	10.7%
公園の除草や花壇の花植えなど、ボランティア活動をする	43	2.9%
その他	6	0.4%
利用しない	483	32.2%

### 1 公園緑地の現状

#### ②公園緑地に対する市民ニーズ

・公園緑地に最も求めるもの（最も充実してほしいもの）について、令和2（2020）年度に実施したかわさき市民アンケートから、「散歩やジョギングがしやすい園路や多目的に使える広場」が21.5%と最も高くなっています。

次いで、「安心して利用できるトイレ、授乳室などのアメニティ施設（16.2%）」「ベンチやあずまや（休憩用の屋根付きの建物）などの休憩スポット（13.9%）」「レストランやカフェ、コンビニ、自販機などの飲食、物販施設があり、週末には飲食や物販などのイベント行われている（10.1%）」という結果となりました。

・公園緑地に求められる機能として、園路、広場やトイレ、休憩施設など公園緑地の基本的な機能を求める声が多かったことに加え、カフェ、レストランといった便益施設のニーズも一定程度あることがわかります。

また、樹林地をそのまま活かした自然体験やオープンスペースを活用したコワーキングスペースなど、新たな利活用ニーズが生まれています。

公園緑地に最も求めるもの（最も充実してほしいもの）[1つ選択]

選択肢	基数（人）	構成比（％）
散歩やジョギングがしやすい園路や多目的に使える広場がある	322	21.5%
安心して利用できるトイレ、授乳室などのアメニティ施設がある	243	16.2%
ベンチやあずまや（休憩用の屋根付きの建物）などの休憩スポットがある	209	13.9%
レストランやカフェ、コンビニ、自販機などの飲食、物販施設があり、週末には飲食や物販などのイベントが行われている	152	10.1%
手入れの行き届いた木々や芝生、花壇などの緑がある	132	8.8%
アウトドア・レジャー用の施設があり、樹林地等をそのまま活用した自然体験・学習イベントが行われている	78	5.2%
さまざまな種類の遊具が充実している	43	2.9%
野球場やサッカー場、スケートボード、BMXなど専用のスポーツ施設があり、スポーツ教室などが行われている	35	2.3%
地域交流施設やコワーキングスペースなど、多目的に利用できる施設がある	32	2.1%
その他	9	0.6%
特になし	245	16.3%
合 計	1500	100.0%



1 公園緑地の現状

③公園緑地におけるイベント等での利用状況

・公園緑地は、地域の団体等の多様な主体がイベント等に広く活用できる場です。公園緑地におけるイベント等で利用状況について、公園内行為許可で分類すると、地域の団体によるお祭り等（全体の20.4%にあたる357件）や幼稚園、小学校等の教育機関による遠足や運動会等（全体の24.3%にあたる427件）に多く利用されています。

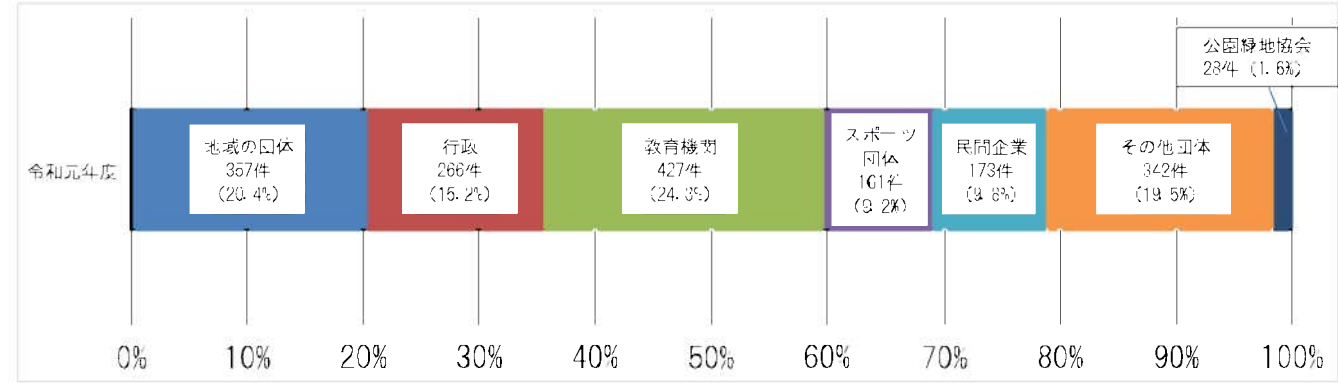
一方で、スポーツ団体による利用は全体の9.2%にあたる161件、民間企業による利用は全体の9.8%にあたる173件であり、地域の団体等に比べて利用が少ない状況となっています。

公園内行為許可の分類（表）

分類	団体の例	令和元年度		主な活動内容
		件数（件）	構成比（％）	
地域の団体	愛護会、管理運営協議会、自治会、町内会、消防団・ボーイスカウト等の地域住民が主体の組織、実行委員会（●●祭り実行委員会）など	357	20.4%	地域のお祭り、地域防災訓練など
行政	市各局・区、消防、警察、図書館、こども文化センター等	266	15.2%	子育て支援イベント、交通安全教室など
教育機関	幼稚園、小・中・高・大学、専門学校等	427	24.3%	遠足、運動会練習など
スポーツ団体	ゲートボール協会、サッカー協会、ラグビー協会などのスポーツ関連の協会・団体等	161	9.2%	ゲートボール、サッカー、ラグビーなど
民間企業	株式会社、有限会社等	173	9.8%	取材、撮影（テレビ、CM、映画）など
その他団体	一般社団法人、NPO、その他任意団体等	342	19.5%	プレーパーク、冒険遊び場、バザー、各団体関連のイベントなど
公園緑地協会	（公財）川崎市公園緑地協会	28	1.6%	里山ボランティア育成講座などのボランティア関連イベントなど
計		1,754	100.0%	

※管理運営協議会が利用調整を行っているラジオ体操などの公園利用については、公園内行為許可の対象外のため、集計対象外。

公園内行為許可の分類（棒グラフ）



### 1 公園緑地の現状

#### <参考>各区で利用の多い主な公園緑地

区	主な公園緑地
川崎区	富士見公園、大師公園、殿町第二公園、小田公園 など
幸区	南河原公園、さいわいふるさと公園、御幸公園、多摩川緑地（小向町地区、古市場地区） など
中原区	等々力緑地、こすぎコアパーク、中原平和公園、多摩川緑地（丸子橋地区） など
高津区	橋公園、多摩川緑地（宇奈根地区、諏訪地区、瀬田地区） など
多摩区	生田緑地、緑化センター、稲田公園 など
宮前区	鷺沼公園、菅生緑地、宮崎第1・第2・第4公園、水沢緑地 など
麻生区	王禅寺ふるさと公園、恩廻公園、栗平東公園 など

#### <参考>多様な主体と連携した公園緑地での取組事例



プレイグリーンパーク @大師公園[川崎区]



コスギンピック @こすぎコアパーク[中原区]



キャンドルスケープ川崎 @多摩川河川敷[高津区]

1 公園緑地の現状

(2) 公園緑地の管理状況

①公園緑地の管理形態

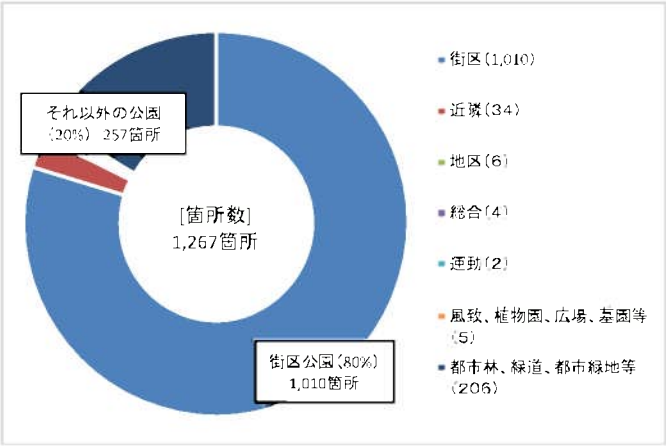
・公園種別ごとの箇所数では、令和2（2020）年3月31日時点で、街区に居住する地域の方々の利用を主な目的とする街区公園（1,000㎡前後の小規模な都市公園）が1,010箇所と公園緑地全体の80%を占めており、市内の公園緑地の多くが小規模な公園緑地となっています。

・管理形態別の箇所数では、1,267箇所の公園緑地のうち、67.7%にあたる858箇所において、公園内の清掃や除草などの日常的な維持管理活動を主とする公園緑地愛護会と、日常的な維持管理活動に加えイベント等の利用調整を担う管理運営協議会を設置し、市民に身近な公園緑地を「地域の庭」として、地域との協働による取組を進めています。

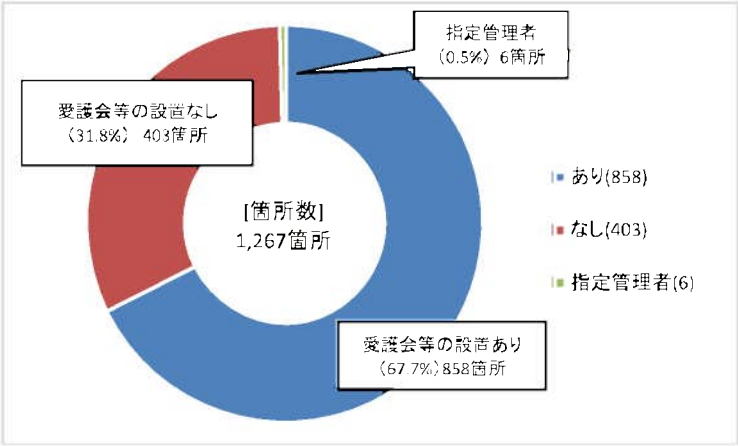
また、大規模な公園や植物園、墓園など6箇所に指定管理者制度を導入し、民間のアイデアやノウハウを活かした管理運営を行っています。

一方で、全体の31.8%にあたる403箇所の公園緑地においては、愛護会・管理運営協議会の設置や指定管理者制度などが導入されていない状況となっており、市の直営管理となっています。

公園種別箇所数



管理形態別箇所数



公園種別管理形態（令和2（2020）年3月31日時点）

公園種別	管理形態(箇所)			計 (箇所)
	愛護会・管理運営協議会		指定管理者(6) ※公園緑地全体	
	あり(858)	なし(403)		
街区(1,010)	753	257	0	1,010
近隣(34)	28	6	0	34
地区(6)	4	1	1	6
総合(4)	0	2	2	4
運動(2)	1	1	0	2
風致、植物園、広場、墓園等(5)	2	0	3	5
都市林、緑道、都市緑地等(206)	70	136	0	206
計(箇所)	858	403	6	1,267

### 1 公園緑地の現状

#### ②愛護会・管理運営協議会の設置状況

・愛護会・管理運営協議会の団体数は、公園緑地設置数の増加に伴って年々増加していますが、公園緑地の設置数に占める愛護会・管理運営協議会の設置率は、ほぼ横ばいとなっています。

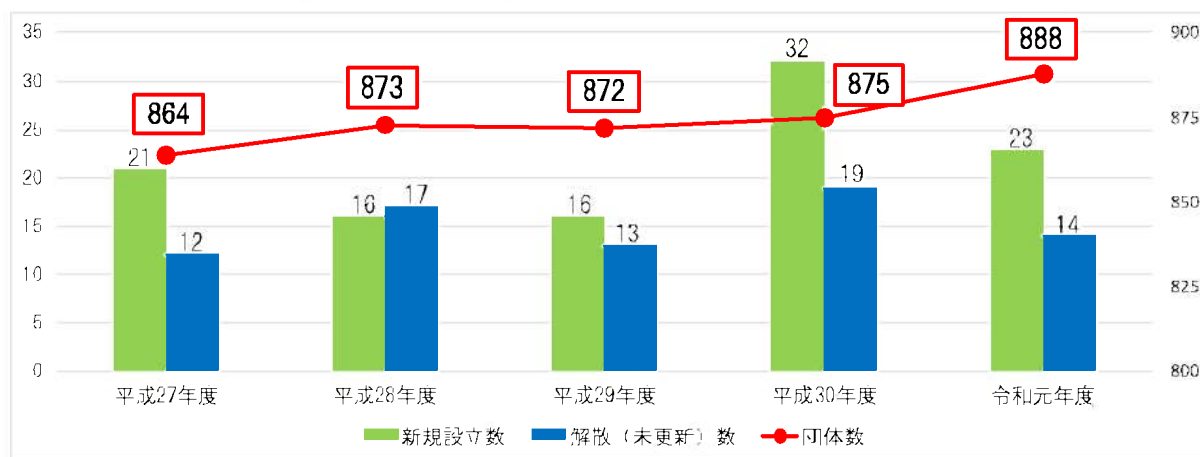
・各年度の新規設立数・解散数は、地域との協働の取組の推進により、公園緑地の新設などの機会を捉えて、働きかけを行っていることから、毎年一定程度の団体の設立がある一方、高齢化や担い手の不足等により活動の継続が困難などの理由から、愛護会・管理運営協議会の解散が発生し、団体の設置数は伸び悩んでいます。

愛護会・管理運営協議会の団体数と設置率の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
愛護会・管理運営協議会の団体数（団体）	864	873	872	875	888
公園緑地設置数（箇所）	1,231	1,239	1,246	1,258	1,264
公園緑地の設置数に占める愛護会・管理運営協議会の設置率（％）	70.2%	70.5%	70.0%	69.6%	70.3%

（注）愛護会・管理運営協議会の団体数は、一公園に対して、複数の団体が設置されている場合があるため、公園緑地数とは一致しない。

愛護会・管理運営協議会の団体数及び新規設置数、解散数の推移





### 1 公園緑地の現状

#### ③公園緑地の管理運営に係る指定管理者の導入状況

・本市では、大規模な公園緑地や植物園、墓園など、地区公園以上の一定の規模を有する公園緑地において、指定管理者制度を導入している一方、P-PFIなど公園緑地における新たな民間活用手法が活用できていない状況となっています。

公園緑地の管理運営に係る指定管理者制度の導入状況

導入施設名[導入時期]	公園種別
富士見公園南側（川崎富士見球技場他）[H27～]	総 合
生田緑地、川崎市岡本太郎美術館、川崎市立日本民家園、川崎市青少年科学館[H25～]	総 合
大師公園[H18～]	地 区
川崎市緑化センター[H22～]	植物園
川崎市営霊園（緑ヶ丘霊園・緑ヶ丘霊堂）[H26～]	墓 園
川崎市営霊園（早野聖地公園）[H26～]	墓 園

### 1 公園緑地の現状

#### （3）公園緑地の設置状況

##### ①公園緑地の設置箇所数及び維持管理に係る費用等の推移

・市内の公園緑地の設置箇所数は、年々増加傾向にあり、直近の約10年間（平成20（2008）年度→令和2（2020）年度）で、約130箇所（1,133箇所→1,267箇所）の公園緑地が増えており、令和2（2020）年4月1日時点では、1,267箇所、759.49haが整備されています。

・公園緑地の設置箇所数と維持管理費用の推移は、設置箇所数の増加による管理面積の増加に伴って、公園施設の点検・補修や樹木の剪定等の日常的な維持管理に関する費用は増加傾向にありますが、管理面積1㎡あたりの費用ではほぼ横ばいとなっています。

公園緑地の設置箇所数と維持管理費用の推移

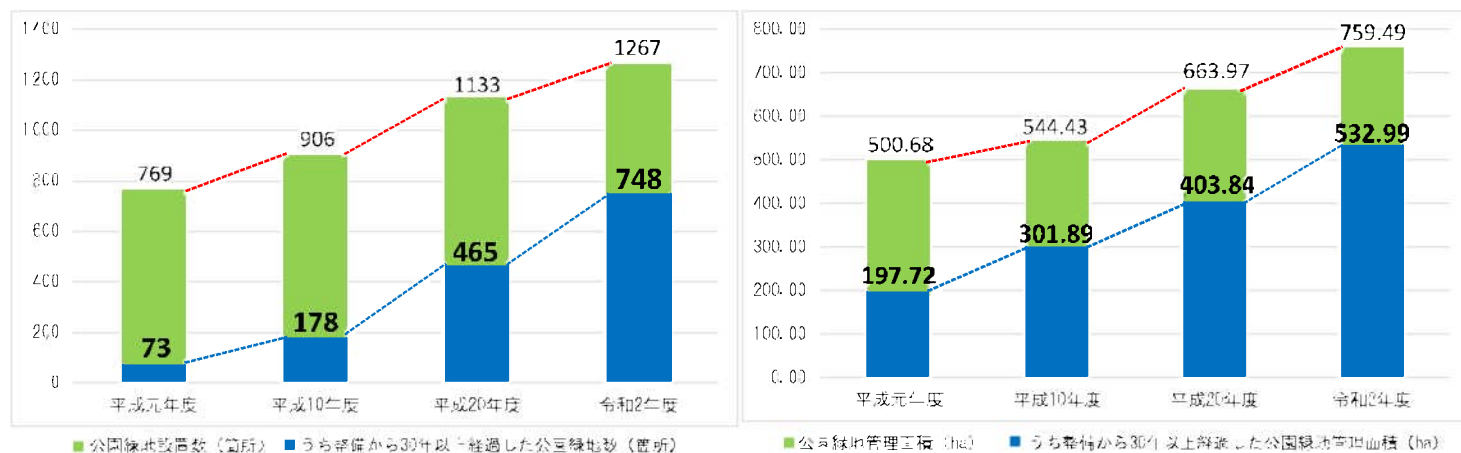
年度	平成元年度	平成10年度	平成20年度	令和2年度
公園緑地設置数（箇所）※各年4月1日時点	769	906	1,133	1,267
管理面積（ha）※各年4月1日時点	500.68	544.43	663.97	759.49
維持管理費用（予算額）（千円）	1,022,022	1,139,768	1,567,627	1,598,613
1㎡あたりの費用（円）	204	209	236	211

##### ②整備から30年以上経過した公園緑地の設置箇所数・面積の推移

・平成元（1989）年度からの30年間で、開設から30年以上が経過した公園緑地は、箇所数で約10倍（73箇所→748箇所）、面積では約3倍（197.72ha→532.99ha）になっています。また、平成28（2016）年の公園施設長寿命化計画策定時に、国の安全基準等に基づき点検した結果、約27,000施設ある遊具や運動施設などの公園施設のうち3,362施設（全公園施設の約12.5%）が老朽化し、補修・更新が必要となっています。

今後も多くの公園緑地の再整備や公園施設の更新時期が到来することに加え、年数を経て大径木化した樹木の剪定・管理など、公園緑地の適正な維持管理に係る財政負担は、年々大きくなっています。

整備後30年以上が経過した公園緑地の設置箇所数・面積の推移



### 1 公園緑地の現状

#### （４）サウンディング調査（民間事業者等ニーズ）

##### ①サウンディング調査結果の概要

令和元（2019）年度に実施した「川崎市の公園緑地の魅力向上に向けたサウンディング型市場調査」において、民間事業者等から公園緑地に対する提案や要望等を調査したところ、次の結果となりました。

①提案団体数・件数	36団体/43件 ※14公園に対し31件の提案があり、公園を特定しない提案は12件ありました。
②主な提案内容	<p>&lt;施設の設置を行う提案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食、物販施設 ・スポーツ施設 ・アウトドア・レジャー施設 など</li> </ul> <p>&lt;イベントやソフト事業などの企画提案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マルシェ、グルメイベント、スポーツ関連教室、アウトドアアクティビティ など</li> </ul> <p>&lt;公園の管理運営に関する提案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パークマネジメントの拡充による効率的な管理運営、柔軟な事業展開</li> <li>・複数公園の包括型指定管理 ・公園を含む周辺のエリアマネジメント など</li> </ul> <p>&lt;その他の提案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園を活用したボランティアの人材育成・活動支援 など</li> </ul>
③主な意見・要望など	<p>&lt;事業の実施に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業化前の一定期間（1年程度）の実証実験の実施</li> <li>・有料施設への利用料金制の導入及び柔軟な料金設定</li> <li>・自主事業の柔軟な企画運営のための規制緩和（たき火など）</li> <li>・施設整備を伴う場合の事業期間の設定（20年程度の長期間）</li> <li>・性能発注など民間のアイデアやノウハウをより活用できる指定管理業務の仕様等の設定</li> <li>・樹木の剪定など公園内樹木の適正な維持管理</li> </ul> <p>&lt;費用負担等に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園内インフラ設備（電気、ガス、水道など）の整備</li> <li>・事業実施に伴う園路、広場等の整備、改修費用の負担</li> <li>・事業者が公募に参加する際の準備に係る時間や費用への配慮</li> <li>・駐車場の増設、駐車スペースの確保</li> </ul> <p>&lt;地域との調整等に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や関係者等との意見交換の場のセッティング（協議会の設置など）</li> <li>・公園の利用状況に関する情報の提供</li> </ul>
④市への提言など	<p>&lt;明確なビジョンの共有&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象となる公園緑地の目指すべき姿や具体的な目標、解決すべき課題などを明確に示し、行政と民間事業者等でしっかりイメージを共有すべき。</li> </ul> <p>&lt;官民の適切な役割分担&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間のアイデアやノウハウの活用にあたっては、行政も一定の負担を前提に、民間との役割分担を適切に決めるべき。</li> </ul> <p>&lt;地域のニーズ、課題の的確な把握&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実証実験の実施や連絡・調整の場を設けるなど、地域のニーズや課題を的確に把握するとともに、行政と民間事業者が協力して地域のステークホルダーとの合意形成を図るべき。</li> </ul>

### 1 公園緑地の現状

#### ②新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による民間事業者等のニーズの変化

令和元（2019）年度に実施したサウンディング調査において提案のあった民間事業者等を対象に、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による事業の実施に向けた考え方やニーズの変化を調査したところ、次の結果となりました。

<p>①昨年度調査時の提案に対する考え方の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案事業の方向性の変化はない。</li> <li>・ 事業実施においては、ソーシャルディスタンスの確保やオープンな空間の形成に寄与する計画や運営方法の検討が必要と考えている。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、屋外のオープンスペースの活用に対する需要が高まっていると感じており、民間事業者による恒常的なイベント開催などがまちの賑わいの創出に寄与すると考えている。</li> <li>・ 提案内容について、コロナ禍では当たり前のニーズとなっており、また、公園との相性が良いことから、早々に提案を実現できると考えている。</li> </ul>
<p>②緑とオープンスペースに関するニーズや事業実施の考え方の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑豊かな環境でこそ新たな発想が生まれるという需要もあると考えている。</li> <li>・ 商業的な側面と賑わい創出の拠点との親和性が高いと考えられることから、「公園×働く、公園×学ぶ」などの活用も考えられる。</li> <li>・ 公園の普遍的な価値がより際立ったと感じている。市民の現在の公園に対する興味、関心が高い時期に、新しい使い方を提案し、公園の不動産価値を高めていくべき。</li> <li>・ 公園緑地の賑わいの創出に向けた線引きが難しいと感じている。特に、イベントの開催においては、新型コロナウイルス感染症対策への配慮や人数制限等を考慮した企画、運営が必要となる。</li> </ul>
<p>③その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業実施上での課題として、事業化までの過程の中で公募が前提となる案件が多いため、小規模の公園などでは民間事業者の参入機会が減ると考えられる。</li> </ul>



### 2 公園緑地の抱える主な課題

本市における公園緑地の現状や市民アンケート、民間事業者等へのサウンディング調査の結果などから、次のとおり課題を整理しました。

#### 【課題1】利用ニーズの多様化への対応

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等により市民のライフスタイルの変化や価値観の多様化が進む中で、民間事業者等の公園緑地の利活用に対する事業ニーズが高まっているとともに、市民アンケート等から、公園緑地のオープンスペースや樹林地等の利活用など、新たなニーズが生まれているものの、公園緑地や保全緑地の利活用に関する運用基準や取扱いが画一的、制限的であるとともに、市民や民間事業者等の多様な利活用ニーズに対応したサービスの提供が難しい状況にあります。
- ・安全性や近隣への配慮等から、利用制限等により公園緑地の日常的な利用に対する不便さが生じています。

#### 【課題2】維持管理に係る担い手の不足と行政負担の増大

- ・清掃や除草等の日常的な維持管理を行う愛護会、管理運営協議会など、協働の担い手の高齢化や後継者不足などの問題が生じており、活動の継続性が危ぶまれています。
- ・一部の公園緑地では、行政による直営管理となっており、また、指定管理者制度についても、公園ごとに個別の導入になっているなど、管理運営のさらなる効率化に向けて、公園緑地における多様な管理運営手法の活用が進んでいない状況となっています。
- ・厳しい財政状況の中で、適正な維持管理が行き届かなくなることにより、公園緑地の維持管理水準や機能の低下が危ぶまれています。

#### 【課題3】柔軟な利活用や効率的な管理運営を見据えた整備の必要性

- ・公園緑地の整備にあたって、園路や広場、ベンチ等の基本的な機能は充実している一方、立地や地域特性に対応した特色のある公園づくりにより地域の魅力向上に寄与している公園緑地が少ない状況にあります。
- ・開設から年数が経過し、老朽化の進行した公園施設が増加しており、維持管理に係る財政負担はますます増大しているため、維持管理が行き届かなくなる公園緑地が発生するおそれがあります。

### 1 基本的な考え方・取組の方向性等

#### （１）パークマネジメントの推進に向けた基本的な考え方

質の高い公園緑地サービスを持続可能なかたちで提供し続けるためには、これまで進めてきた多様な主体との連携によるパークマネジメントの取組をさらに一步進め、行政側のこれまでの利活用や管理運営に対する硬直的な考えを見直すとともに、今後取り組むべき方向性を多様な主体と共有していくことが必要です。

そこで、公園緑地の抱える主な課題の解決に向けて取り組んでいく基本的な考え方を整理し、3つの視点としてとりまとめました。

##### 【視点1】柔軟な利活用の促進と利用の多様化

- ・運用基準の緩和等により、多様な主体の参入機会を増やし、柔軟かつ多様な目的での利活用を一層進めるとともに、市民ニーズや民間事業者等のニーズを踏まえて、公園緑地の多様な利活用ニーズに対応した公園緑地等の機能の拡大を進めます。
- ・地域住民が快適に利用できる公園緑地とするためのルールづくりなど、公園緑地の利便性や機能の向上に向けて、地域が主体となった公園緑地の日常的な利用の仕組みの構築を進めます。

##### 【視点2】利用者の視点・経営的な視点に立った維持管理・運営

- ・地域における新たな協働の担い手となる活動主体の確保・育成を進め、持続的な維持管理活動につなげます。
- ・これまでの一律的な管理運営手法を見直し、複数公園の包括型管理運営など、多様な管理運営手法の活用・導入により、管理運営のさらなる効率化を図り、持続可能な管理運営の仕組みの構築を進めます。
- ・収益施設の誘致やネーミングライツ等により、公園緑地における収益性の確保・向上を進め、事業収益の還元により、維持管理水準の維持・向上を進めます。

##### 【視点3】柔軟な利活用と効率的な管理運営を見据えた公園づくり

- ・公園緑地の整備等の機会を捉えて、民間事業者等の多様な主体がもつ柔軟な発想や専門的なノウハウを活かして、公園緑地の立地特性や地域の特色を活かした魅力的な公園づくりを進めます。
- ・将来的な維持管理に係る負担の軽減に向け、適正な維持管理を考慮した公園づくりを進めます。

## 1 基本的な考え方・取組の方向性等

### (2) パークマネジメント推進方針の取組の方向性

(1) に示す基本的な考え方、3つの視点ごとに、取組の現状及び今後進めていく取組の方向性を次のとおり整理しました。

